

## 蒲生干潟の植物⑱

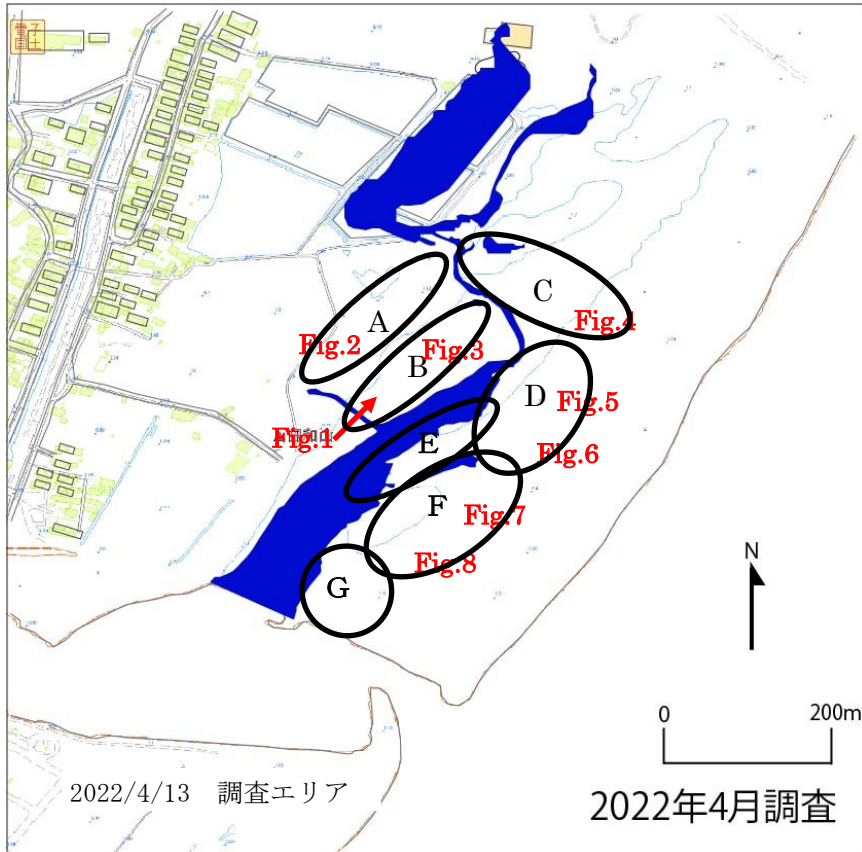


Fig.1 エリアBを南東側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影

Fig.3 エリアBで撮影

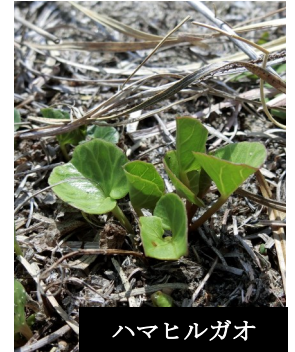
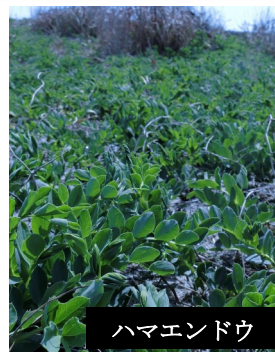
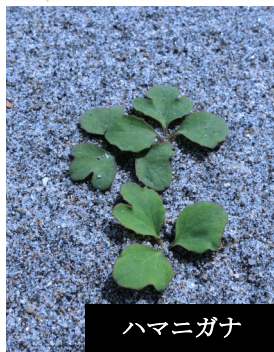


Fig.4 エリアCで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアDで撮影

Fig.7 エリアFで撮影

Fig.8 エリアFで撮影

調査日時：2022年4月13日（水）9:30～11:00，天気：晴れ

定点観測では、ハマツナが遠目でも分かるようになってきたが、全体としてはまだ茶色が目立つ（Fig.1）。エリアAに広がるヨシの根元から新しい個体が確認でき、どれも15～20cmほどに成長していた（Fig.2）。エリアBのハマツナは点在しているものもあれば群生しているもあった（Fig.3）。エリアC～Fにかけて、広範囲にハマニンニクが生育し、背丈が30cmほどにまで成長していた（Fig.4）。エリアD、Fの地表面には、ハマニガナの新しい葉が出ていた（Fig.5）。エリアDとFの境界からエリアF全域にハマエンドウが広範囲に葉を広げていた。昨年よりも範囲が広く来月の開花を期待したい。エリアC～Fには、コウボウムギやコウボウシバが地表面を覆っているが、ごく一部でコウボウムギの新しい穂が伸び始めているのが確認できた。非常に小さく3cmほどであったが、これから多くの株で同じように成長するのが期待される（Fig.7）。また、エリアFでは、ハマヒルガオの葉も確認できた。例年ハマエンドウの花の後に成長し時期をずらして開花するので、これから葉の数も増え大きくなっていくだろう。（宮崎佳彦）